

二〇二五年五月二三日

子育てに余念なき親つばめかな
玉解きてはや風いなす芭蕉かな
麦秋の大和平野に香りたつ

千鶴
むべ
明日香

金婚の夫に感謝のビール注ぐ

あひる

二〇二五年五月一八日

ひと筋の清き流れや花菖蒲
独り居に存問と聴く初音かな
点描めくメタセコイアの芽吹きかな

むべ
うつぎ
むべ

ショーウインドウに姿勢を正す薄暑かな

やよい

二〇二五年五月二二日

城垣に日の斑を落とす青葉かな
風通ふ日の斑の道に三尺寝
雨意兆す風鈴急を告げにけり
白亜なる母子像薔薇に埋もれけり

康子
澄子
澄子
むべ

二〇二五年五月一七日

輿に座す斎王代に風薫る

山椒

二〇二五年五月二〇日

堂涼し神の愛説く牧師また
樹下涼し一会の人とバスを待つ
あめんぼう木影遊泳するごとく
迫りくる梅雨に急かされ畑仕事

せいじ
きよえ
康子
千鶴

輿に座す斎王代に風薫る
万緑に鴟尾抽んでし東大寺
園児らの田植体験泥笑顔
新玉のオニオンサラダ山と盛り
堆く積んで危うし苺パフェ
夏蝶の一頭夫の召天日
花粉マスク外す四阿風五月
濃く淡く堂塔包む若楓

ふさこ
わかば
かかし
千鶴
あひる
むべ
なつき
わかば

二〇二五年五月一九日

斯く風化して苔むせる合戦碑
老鶯の声空谷の深きより
寺町の僧速足に夏衣
風に立ち岩に碎ける卯波かな

愛正
澄子
たか子
むべ

毎日句会みのる選・二〇二五年五月二六日